

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第5区分
【発行日】令和6年2月16日(2024.2.16)

【公開番号】特開2023-51374(P2023-51374A)
【公開日】令和5年4月11日(2023.4.11)
【年通号数】公開公報(特許)2023-067
【出願番号】特願2021-161993(P2021-161993)
【国際特許分類】

B 6 2 M 6/55(2010.01)

F 1 6 C 19/16(2006.01)

F 1 6 C 35/067(2006.01)

F 1 6 C 3/06(2006.01)

【F I】

B 6 2 M 6/55

F 1 6 C 19/16

F 1 6 C 35/067

F 1 6 C 3/06

10

【手続補正書】
【提出日】令和6年2月5日(2024.2.5)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0044
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0044】

20

突出部22Bは、対向面22Aが径方向X2に対して平行になるように、径方向X2内側に突出する。突出部22Bは、第1部分22Cと第2部分22Dとを含む。第1部分22Cは、第1筒状部40の端部と連続する。第1部分22Cは、径方向X2の内側に向かって延びる。第1部分22Cは、対向面22Aを含む。第2部分22Dは、第1部分22Cのうちの径方向X2の内側の端部と連続する。第2部分22Dは、第1方向X1に延びる部分と、径方向X2に対して平行に延びる部分とを含む。第2部分22Dのうちの第1方向X1に延びる部分の内径は、第1筒状部40の内径よりも小さい。第1部材22は、第2部分22Dを含まないように構成されてもよい。第2部分22Dの内周面には、シール部材23が配置される。シール部材23は、第1部材22とクランク軸30との間に配置される。例えば、シール部材23は、弾性体によって形成される。シール部材23は、例えば、合成ゴムによって構成される。シール部材23は、第2部分22Dの内周面と、クランク軸30の外周面とにそれぞれ接触する。

30

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0070
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0070】

40

例えば、第1部材48は、工具に係合可能な第1工具係合部48Eを含む。例えば、第1工具係合部48Eは、第1部材48の内周部に設けられる。第1工具係合部48Eの形状は特に限定されない。例えば、第1工具係合部48Eは、第1方向X1に延び、かつ、第1回転方向A1方向に間隔をあけて配置される複数のスプラインによって形成されてもよい。例えば、第1部材48の内周部の少なくとも一部は、第1方向X1から見て、六角

50

形状に形成されてもよい。第 1 部材 4 8 は、工具によって第 1 ねじ 5 4 A が第 2 ねじ 5 0 A にねじ込まれるように、操作される。第 1 部材 4 8 は、工具によって周方向 X 3 に回転される。第 1 部材 4 8 は、工具によって周方向 X 3 に回転されることによって、第 1 方向 X 1 に移動する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 4】

10

第 2 部材 5 2 は、第 3 筒状部 5 8 を有する。第 3 筒状部 5 8 には、第 1 ねじ 5 4 A に結合される第 3 ねじ 5 8 A が形成される。第 3 ねじ 5 8 A は、第 3 筒状部 5 8 の内周部に形成される。例えば、第 3 ねじ 5 8 A は、第 3 筒状部 5 8 の内周部において、第 1 方向 X 1 の全区間にわたり形成される。第 3 筒状部 5 8 は、第 1 筒状部 5 4 に実質的に同軸に配置される。第 3 筒状部 5 8 は、第 2 筒状部 5 0 に実質的に同軸に配置される。本実施形態では、例えば、第 1 ねじ 5 4 A は、雄ねじである。第 2 ねじ 5 0 A は、雌ねじである。第 3 ねじ 5 8 A は、雌ねじである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

40

50

【図 3】

